HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ語鵡川方言テキスト(1) : 火の玉を見て気を失った話
Author(s)	岸本, 宜久
Citation	北方言語研究, 14, 251-270
Issue Date	2024-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/110538
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92082
Type	departmental bulletin paper
File Information	14_Kishimoto.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北方言語研究 14: 251-270（日本北方言語学会 2024）

［資料・研究ノート］

アイヌ語鵡川方言テキスト（1）
―火の玉を見て気を失った話―

岸 本　宜 久
（札幌学院大学）

1. はじめに

本稿では、アイヌ語鵡川方言の話者である吉村冬子氏から筆者が採録した経験談の語り 2 編を紹介する。日本語を第一言語とする世代の継承語としてのアイヌ語の資料と位置づけられる。

1.1 本テキストの話者について

本テキストの話者である吉村冬子氏（1926-2022）は、北海道胆振東部を流れる鵡川河口の村、チン（現むかわ町汐見）で生まれ育った女性である。アイヌ語と日本語のバイリンガルである両親と 17 歳までともに暮らし、両親のアイヌ語や、特に母親の交友関係の中でアイヌ語に深く接して育ったという。アイヌ語に対する社会的な抑圧のために、吉村氏自身は日常的にアイヌ語を話すことはなかったそうで、両親や周囲の人とは主に日本語で会話していたとのことである。また、青年期以降は次第に日本語のみの言語環境となり、生活の中では長期にわたりアイヌ語に接することがなかったとのことである。しかし、70 代にさしかかったころより、姉の新井田セイノ氏とともに鵡川のアイヌ語やアイヌ文化に関する調査・伝承活動への協力を求められるようになり、とくに映像作家の片山龍峯氏によるアイヌ語の採録調査への協力は、吉村氏の中で継承語（母語）としてのアイヌ語が再活性化する大きな契機になったという[1]。爾来、アイヌ文化のみならずアイヌ語鵡川方言の伝承活動に精力的に取り組まれてきた話者の一人である。

写真 1　吉村冬子氏

[1] 本稿での吉村氏の略歴は、筆者が言語調査を通じて吉村氏から得た情報に基づくものである。アイヌ語・アイヌ文化に係る吉村氏のご功績とより詳細なライフヒストリーについては、岸本（2021）、押野・秋山（2022）を参照されたい。なお、片山龍峯氏によるアイヌ語鵡川方言の採録データは、2014 年から千葉大学人文公共学府地域研究センターのホームページ上にあるアーカイブ内で「アイヌ語鵡川方言　日本語－アイヌ語辞典」として公開されており、2024 年 1 月現在、語彙と用例を中心に全テキストの検索と音声の聴取が可能な状態にある（https://www.gshpa.chiba-u.jp/cas/Ainu-archives/index.html）。

1.2 本テキストの採録と特徴

筆者は 2012 年から 2020 年にかけて、吉村冬子氏とともにアイヌ語鵡川方言の記述を目的とした言語調査を 177 回実施した。調査ではエリシテーションによる語彙や文法調査以外にも、吉村氏が日本語で語った話をアイヌ語で語っていただくなどしてテキストを採録した。本稿の 2 編のテキストは、吉村氏が幼少期に火の玉を見て気を失ったという一連の経験談を 2014 年 8 月 30 日（第 54 回調査）と 2015 年 8 月 8 日（第 89 回調査）の 2 回、むかわ町汐見の吉村氏宅で語っていただいたものである。記録に際してはデジタル IC レコーダーとビデオカメラによる記録を行った。それぞれカタカナ表記のアイヌ語でテキスト化した上で、後日、吉村氏に表現や意味について確認した。

前述のとおり吉村氏はアイヌ語鵡川方言の継承語話者である一方、長期にわたる日本語のみの環境の中で日本語を第一言語として用いている。日常のなかでアイヌ語を使用・内省する場面は限られ、思うような産出がかなわないことも増えていったようである。2012 年から始めた筆者との言語調査においても、はじめのうちは思い出せない言葉が散見されたが、継続的な調査で内省を重ねるなかで、以前は思い出せなかった言葉が自然と現れたり、アイヌ語で積極的に語る談話テキストが得られたりと語彙面、文法面ともに再活性化がみられた。

本稿の 2 編のテキストは同じ経験談を語ったものであるが、語彙使用のみならず文法的な表現の使用にも相違がみられる。たとえば、2014 年のテキスト 1 においては受動態の表現が積極的に現れないのに対し、2015 年のテキスト 2 では「a=en=ye（言われる ＜ a= 4.A, en= 1.SG.O, ye 言う）」や「a=en=kopasrota（叱られる ＜4.A=1SG.O=叱りつける）」など、受動態の表現が複数個所で現れている。また、テキスト 1 では日本語を語ったうえでアイヌ語に言い直す箇所が散見されるが、テキスト 2 ではその頻度が下がっている。ところどころ日本語へのコードスイッチングはみられるが、テキスト 1 からテキスト 2 までの約 1 年の間にもアイヌ語産出の再活性化がうかがえる。

語彙、文法の体系、アイヌ語と日本語のコードスイッチングなど、日本語を第一言語とする世代の継承語としてのアイヌ語資料の特徴の分析・記述は、他のテキストの公開とあわせて今後の課題の一つである。

1.3 表記と分析

本稿のテキストは、1 行目にアイヌ語の音素表記、2 行目に日本語グロス、3 行目に日本語の意訳を示す。アイヌ語鵡川方言の音素は/a, i, u, e, o/の 5 母音と/p, t, k, c [tɕ], s, r, m, n, y, w, h/の 11 子音である[2]。母音が連続する場合は母音間に声門閉鎖音を伴うが、義務的であるため表記は省略する。有声無声の対立はないが、吉村氏の/p, t, k, c/は基本的に無声音である。また、音節末の/p, t, k/は内破音である。テキスト中の日本語は、下線付き斜体の訓令式ローマ字で示している。なお、調査者（筆者）の発話は K:として丸括弧内に示している。

表記・分析は、吉村氏への聞き取り調査で得られたデータとあわせて、鵡川方言と比較的近い関係にある沙流方言の田村（1996）、萱野（2002）および千歳方言の中川（1995）を参

[2] 本稿のアイヌ語の音韻表記は、声門閉鎖音の表記を除き服部編（1964：34）に基づく。

考に筆者が行った[3]。

2. アイヌ語鵡川方言テキスト：火の玉を見て気を失った話

あらすじ

私は母に何か用事を言いつけられて姉の家へ行ったが、姉は不在だった。しばらく待っていたが、夕方になっても姉が戻らないので家路につくと、誰か男のような人が自分の歩く先に見えた。その人に追いついて一緒に帰ろうと走ればその人も走り、ゆっくり歩けばその人もゆっくり歩き、一向に追いつけない。何かよくないものにもてあそばれているなと思ったとき、大きな火の玉が飛んできて、道の向こうにある和人の倉に落ちるのを見て気を失った。夜になっても帰らない私を心配して探しにきた母に起こされ、怒られながら一緒に家に帰ると、家に入る前にとげのあるタチイチゴでお祓いをされ、塩でお祓いをされた。家に入ると食事を勧められたが、幼い私はひどく疲れてしまい、食事もしないで寝てしまった。

2.1 テキスト 1

採録日：2014 年 8 月 30 日
テキスト収録時間：13 分 46 秒

(1) ku=kor hapo sa-ha or un, hemanta ne yakka k=oyra korka
1SG.A=持つ 母 姉- POSS ところ へ 何 COP ても 1SG.A=忘れる けれど
私の母が、姉のところへ、何であったか忘れたけれど

(2) arpa wa ek yan sekor hawean wa
行く て 来る IMP.FP QUOT 言う て
行ってきなさいと（母が）言って

(3) nep ku=ye kusu ne ka tane anakne k=oyra korka
何 1SG.A=言う ため COP か 今 TOP 1SG.A=忘れる けれど
何をいうためだったか今となっては忘れたけれども

(4) *ane no* cise or un k=ek wa *ane* isam wa hosipi wa ek siri
姉の 家 ところ へ 1SG.S=来る て 姉 いない て 帰る て 来る VIS.EV
ku=tere kor oro ta sinot kor an
1SG.A=待つ て そこ で 遊ぶ て いる/ある
姉の家へ私が来ると姉がいなかったので、帰ってくるのを待ちながらそこで遊んでいた。

(5) yakka, *ane modotte*, *ane* hosipi wa ek ka somo ki wa tane sirkunne kusu
でも 姉もどって 姉 帰る て 来る も NEG する て 今 暗くなる ので
ane ka ku=nukar ka somo ki no ku=hosipi wa, akusu
姉 も 1SG.A=見る も NEG する て 1SG.S=帰る て すると

[3] 鵡川方言は、アイヌ語北海道方言のなかでも南西部方言グループに属し、周辺の沙流方言や千歳方言と特徴的に近い関係にある方言である（田村 2002）。

しかし、姉はもどってこず、もう暗くなったので、姉に会えないまま帰ると

(6) arpa *totyuu ni* okkayo neno an, nanu-hu *mo* ku=nuka.. *mienai*,
行く 途中に 男 ように いる/ある 顔-POSS も # 見えない
usiro.. *usiro kara mirukara* hunna ne yakka *wakannai*
後ろから見るから 誰 COP ても わかんない
行く途中で男のような、顔も見えない、後ろから見るから誰であってもわからない。

(7) kani *okubyoo da mon da kara* toan kur eun hoyupu wa
1SG.PRON 臆病だもんだから あの 人 へ 走る て
turano arpa yakun pirka nankor sekor ku=yaynu wa
一緒に 行く なら 良い だろう QUOT 1SG.S=思う て
私は臆病なものだから、その人のほうへ走って、一緒に行けばよいだろう思って

(8) *isoide*, [...][4] toan kur os ku=hoyupu a yakka osikoni niwkes
急いで あの 人 後ろから 1SG.S=走る PERF ても 追いつく できない
急いでその人を追って走ったけれども、追いつくことができなかった。

(9) hunna ne ya ka k=erampewtek korka menoko somo ki okkayo
誰 COP Q も 1SG.A=わからない けれど 女 NEG する 男
neno ku=nukar wa os arpa ko.. a..
ように 1SG.A=見る て 後ろから 行く # #
誰だかわからないけれど、女でなく男のようにみえて後ろから追いかけて行った。

(10) kani *isogeba* ne okkaypo *mo* hoyupu somo ki korka,
1SG.PRON 急げば その 青年 も 走る NEG する けれど
hoyupu somo ki korka[5]
走る NEG する けれど
私が急げば、その男（青年）も走らないけれど

(11) kani anakne to.. ne okkayo neno an pe or un
1SG.PRON TOP # その 男 ように いる/ある NMLZ ところ へ
samake ta arpa rusuy kusu ku=hoyupu kor ne okkaypo ka *isoide* apkas
そば に 行く DESID ので 1SG.S=走る と その 青年 も 急いで 歩く
私がその男のようなもののそばに行きたくて走ると、その男も急いで歩いた。

(12) *nanbo isoide mo isoide mo kattukenai*, *sugata wa mieterusi* ne okkaypo *to*
なんぼ急いでも急いでもかっつけない 姿は見えてるし その 青年 と
kani apkas *aida*, *hanarete mo inai noni*, *doosite* osikoni
1SG.PRON 歩く 間 離れてもいないのに どうして 追いつく
dekinaindabe to omoinagara, *akiramete yukkuri aruitara*
できないんだべと思いながら 諦めてゆっくり歩いたら

[4] 「ちょっと待っててよ、ゆっくり考えらしてもらえれば別だけどもね、突然にそんな考えてもいないこと言われたら、言いたいことも結局は日本語になってしまう」という 20 秒ほどの発言の後に再開してテキストに続く。

[5] (10)は全体的に言い淀んでいる。

どれほど急いでも追いつけない、姿は見えているし、その男と私が歩く間も離れていないのに、どうして追いつけないのだろうと思いながら諦めてゆっくり歩くと

(13)neno ne okkaypo ka *yukkuri* apkas kor an
そのように その 青年 も ゆっくり 歩く て いる/ある
同じようにその男もゆっくり歩いている。

(14)*are kore okasii yo*, *isogeba mukoo mo isogu*, *yukkuri arukeba*, apunno
あれこれおかしいよ 急げば向こうも急ぐ ゆっくり歩けば ゆっくり
apkas kor, ne okkaypo ka apunno apkas
歩く と その 青年 も ゆっくり 歩く
あれ、これはおかしいな。私が急ぐと向こうも急ぐし、ゆっくり歩くとその男もゆっくり歩く。

(15)ku=yohu.. ku.. ku=hoyupu rusuy kusu, osikoni rusuy kusu arpa yakka
1SG.S=走る DESID ので 追いつく DESID ので 行く ても
osikoni ka niwkes ayne yaynu.. ku=yaynu humi
追いつく も できない そのあげく # 1SG.S=思う NONVIS.EV
私は（走りたいので）追いつきたいのでついて行っても追いつくことができず、ついに私が思ったことは

(16)nep ka wen pe *zibun ni* kani oun i=wen-te rusuy kusu
何 か 悪い NMLZ 自分に 1SG.PRON へ 4.O=悪い-CAUS DESID ので
nep ka pirka p ka somo ki p nankor sekor ku=yaynu kor
何 か 良い NMLZ も NEG する NMLZ だろう QUOT 1SG.S=思う て
何か悪いものが私に悪さをしたいので、何も良いものではないのだろうと思いながら

(17)*tyotto dake yoko sa muita totan ni*, *ookina hi no tama*, *kawa-mukai kara*
ちょっとだけ横さ向いた途端に 大きな火の玉 川向いから
ano tiisai hasi no mukai-gawa kara tonde ku=sapa ekarino
あの小さい橋の向かい側から飛んで 1SG.(A)=頭 向かって
ne *hi no tama tondeiku*
その 火の玉飛んでいく
ちょっとだけ横を向いた途端、大きな火の玉が、川向かいから、あの小さな橋の向かいから飛んできて、私の頭のほうに向かって飛んでいった。

(18)*are* sekor ku=yaynu
あれ QUOT 1SG.S=思う
「あれ？」と私は思った。

(19)*sosite sono* apkas uske ta ru oyak un *ni* sisam *no* pon cise,
そしてその 歩く 場所 に 道路 別のほう へ に 和人 の 小さい 家
kura as wa a.. an pe
倉 たつ て # いる/ある NMLZ
そして、歩いているところ、道路をまたいだところに和人の小さい家、和人の倉がたっ

ていたもので[6]

(20)oro un ne *hi no tama*, *densin-basira kurai mo takai takasa ga atte*
そこ へ その 火の玉 電信柱くらいも高い高さがあって
tondekita hi no tama ga
飛んできた火の玉が
そこへその火の玉、電信柱くらいもの高さがあって飛んできた火の玉が

(21)suma ka osura hi neno *pon to sono yane sa otite*
石 も 捨てる NMLZ ように ぽんとその屋根さ落ちて
otitetteyuu kotoba nantakana
落ちてっていう言葉なんたかな
石でも捨てるようにぽんとその屋根に落ちて、「落ちて」という言葉、アイヌ語でなんといったかな。

(22)*iyoiyo zibun okasii to omotta dakede*, *ato wa*, makanak ku=iki kor
いよいよ自分おかしいと思っただけで 後は どう 1SG.S=する て
k=an ka k=erampewtek
1SG.S=いる/ある も 1SG.A=わからない
いよいよ自分がおかしくなったと思っただけで、後はどうしていたのか覚えていない。

(23)oro wa *dono guraika tatta no ka*, ku=mi p,
そこ から どのぐらいか経ったのか 1SG.A=着る NMLZ
ku=mi p ani wa
1SG.A=着る NMLZ 持つ て
それからどのくらい経ったのか、私の着物を手に持って

(24)hopuni yan, hopuni yan sekor, as eaykap *katte yutte* iruska kor
立つ IMP.FP 立つ IMP.FP QUOT 立つ できない かってゆって 怒る て
「立ちなさい！立ちなさい！」「立てないのか？」と言って怒りながら

(25)ku=kor amip as.. ku=kor amip kisma wa iruska kor an uske ta
1SG.A=持つ 着物 # 1SG.A=持つ 着物 掴む て 怒る て いる/ある 場所 に
ku=yaynu akusu
1SG.S=思う と
私の着物を掴んで怒っているところで、私が正気付くと

(26)ku=kor hapo ne wa an wa hemanta an, ene an uske ta
1SG.A=持つ 母 COP て いる/ある て 何 COP こう いる/ある 場所 に
e=hokke wa an ruwe ne
2SG.S=寝る て いる/ある INFR.EV COP
私の母であって「何があってこんなところに寝ているんだ」。

[6] 「ru oyak un *ni*（*lit.* 道路の別のほうに）」の箇所は、同経験談に関する 2014 年 10 月 25 日の調査で「道路またいで片側に」、2015 年 4 月 11 日の調査で「道路またいだところで」と吉村氏が日本語で語っているため、それを日本語訳とした。

(27)*moo* tane s.. poronno sirkunne wa, isam hi ta ne kusu
もう 今 # たくさん 暗くなる て いない NMLZ に COP ので
もうすっかり暗くなって（その男も）いなくなったので

(28)hapo, tane ek hi ta neun ka
母 今 来る NMLZ に 誰 か
dareka ikiawanakattakatte ku=nu akusu
誰か行きあわなかったかって 1SG.A=聞く と
「母さん、今来るときに誰かと行きあわなかった？」と聞くと

(29)*dare konna kurai toki aruku mono irunoyo*, *omae kuraina mondabesa*
誰こんな暗いとき歩くものいるのよ お前くらいなもんだべさ
nasite konna toko de neterundatte yutte
なしてこんなとこで寝てるんだってゆって
（母は）「誰がこんな暗い時間に歩くのよ、お前くらいなもんでしょ。なんでこんなところで寝ているんだ」と言って

(30)tane *koyuni koyuni natte nannimo* k=erampewtek ku=hokke kor an ka
今 こゆにこゆになってなんにも 1SG.A=わからない 1SG.S=寝る て いる/ある も
k=erampewtek pe ne na sekor ku=hawean akusu
1SG.A=わからない NMLZ COP FP QUOT 1SG.S=言う と
「今、こうなってこうなって何も覚えていない、私が寝ていたこともわからないんだよんだよ」と言うと

(31)*sono* hapo iruska kor eani *mitaini* sirkunne hi ta apkas *suru mono*
その 母 怒る て 2SG.PRON みたいに 暗くなる NMLZ に 歩く するもの
hunna an pe ne wa ene hawean kor an sekor hawean kor
誰 いる/ある NMLZ COP て こう 言う て いる/ある QUOT 言う て
母は怒りながら「お前みたいに暗い時間に歩くもの誰がいるんだ、そんなこと言って」と言いながら

(32)ku=tek-e kisma wa iruska kor, iruska kor cise sam ta arpa akusu
1SG.(A)=手-POSS 掴む て 怒る て 怒る て 家 そば に 行く と
私の手を掴んで、怒りながら家のそばに行くと

(33)*sonomama* cise or ta ahun yakun wen na, te ta as wa an
そのまま 家 ところ に 入る なら 悪い FP ここ に 立つ て いる/ある
sekor hawean wa *matteita*,
QUOT 言う て 待っていた
「そのまま家に入ったらだめだよ、ここに立っていなさい」と言うから私は待っていた。

(34)*sositakke* asinru samake ta ek sekor hawean wa
そしたっけ 便所 そば に 来る QUOT 言う て
oro ta as wa an akusu
そこ に 立つ て いる/ある と
そうしたら、便所のそばに来いと母が言うので、そこに立っていると

(35)hinak un ka hapo arpa wa hureayusni tuy wa kor wa ek wa
どこ へ か 母 行く て タチイチゴ 切れる て 持つ て 来る て
どこかへ母が行って、とげのあるタチイチゴを切って持ってきて

(36)kani eun kasi kik sapa-ha *sa* *toge sasaru*, *sunekkara sa toge sasaru*,
1SG.PRON へ 上 打つ 頭-POSS さ とげ刺さる すねっからさとげ刺さる
sonno a.. arka wa
本当に # 痛い て
私に打ち付けてお祓いをする。頭にもとげが刺さり、脛にもとげ刺さって本当に痛くて

(37)yakka *oya no suru kotodamono to omotte tatteita*, *sorede* *owarunokana to omotte*,
でも 親のすることだものと思って立っていた それで 終わるのかなと思って
doko sa ka sono hureayusni asinru yori utu.. outunne or un
どこさかその タチイチゴ 便所 より # 下座側 ところ へ
hapo osura kusu arpa noyne an wa
母 捨てる ため 行く らしい いる/ある て
だけど親のすることだものと思って立ってい。それで終わるのかなと思って、どこかにそのタチイチゴを便所より下座側のところへ母が捨てに行ったようで

(38)kani *sorede* pirka hawe ne sekor ku=yaynu kor cise or un
1SG.PRON それで 良い REP.EV COP QUOT 1SG.S=思う て 家 ところ へ
arpa kusu, *kke*
行く ため っけ
私はそれでいいんだと思って家へ行くので、そしたら

(39)hapo *sonomama ie sa haittara dame dayotte* sekor *mata* iruska kor an
母 そのまま家さ入ったらだめだよって QUOT また 怒る て いる/ある
母が「そのまま家に入ったらだめだよ」とまた怒っている。

(40)cise soy ta as wa an akusu,
家 外 に 立つ て いる/ある と
家の外に立っていると

(41)hapo ne hureayusni osura wa kani samake ta ek wa *ie no naka sa*
母 その タチイチゴ 捨てる て 1SG.PRON そば に 来る て 家の中さ
ti.. iyapo sippo en=kor-e sekor hawean kor
父 塩 1SG.O=持つ-CAUS QUOT 言う と
母がそのタチイチゴを捨てて私のそばに来て、家の中に向かって「父さん、塩をちょうだい」と言うと

(42)*sio*, *titioya dasitekite kurete*, *sono* sippo ani kani eun kasi a=kikkik
塩 父親出してきてくれて その 塩 で 1SG.PRON へ 上 4.A=何度も打つ
wa oro.. oro wa easir cise or un omare wa en=kor-e
て # そこ から 初めて 家 ところ へ 入れる て 1SG.O=持つ-CAUS
塩を父が出してきてくれて、その塩で私をお祓いして、ようやく家へ入れてくれた。

(43)*moo na*.. *nani ga nani yara* kohetoci korka *moo* ku=sinki ka ki
もう # なにがなにやら わけがわからない けれど もう 1SG.S=疲れる も する
hurueru ka ki kor cise or un *haitte* ape sam ta mono a
震える も する て 家 ところ へ 入って 火 そば に 静かに 座る
もう何が何やらわけがわからないけれど、疲れてもいるし震えもしているので、家へ入って火のそばに座った。

(44)*omae kurukato omotte mono kuwanaide matterunoni*, *nande imamade kurakunattemo konna*..
お前来るかと思ってもの食わないで待ってるのに なんで今まで暗くなってもこんな
konaindatte okorarete, *dakedomo*
来ないんだって怒られて だけども
「お前がくるかと思ってものも食わないで待っていたのに、なんで今まで暗くなるまで帰ってこないんだ」と怒られたけれども

(45)ipe=an ro eani ek kusu tere wa an
食べる=1PL.S.INCL FP 2SG.PRON 来る から 待つ て いる/ある
coka utari, coka utar ana.. ka ipe somo ki no
1PL.EXCL.PRON 人々 1PL.EXCL.PRON 人々 # も 食べる NEG する て
e=tere wa an pe ne na, ne korka ipe=an ro
2SG.O=待つ て いる/ある NMLZ COP FP COP けれど 食べる=1PL.S.INCL FP
sekor hawean kor ohaw *nobasite* en=kor-e korka
QUOT 言う て おつゆ のばして 1SG.O=持つ-CAUS けれど
「食べよう、お前が来るから私たちも食べないでお前を待っていたんだぞ、食べよう」と言いながら、おつゆをのばして私にくれるけれど

(46)ipe ka toranne, ku=sinki rusuy.. ku=hokke rusuy ipe ka somo ki
食べる も 面倒だ 1SG.S=疲れる # 1SG.S=寝る DESID 食べる も NEG する
sekor ku=hawean kor kani anakne nani ene hawean wa hokke akusu
QUOT 1SG.S=言う て 1SG.PRON TOP すぐ こう 言う て 寝る と
食べるのもいやで寝たい、食べないと言って、私はすぐそういって横になると

(47)iyapo *to* hapo *to*, *watasi no yutta koto o issyokenmee* iyapo *sa*
父 と 母 と 私のゆったことを一生懸命 父 さ
nu-re kor an
聞く-CAUS て いる/ある
父と母とは、私の言ったことを一生懸命、母が父に聞かせている。

(48)makkaci ne kusu ku=sinki korka nani ku=mokor wa okake..
少女 COP ので 1SG.S=疲れる けれど すぐ 1SG.S=眠る て #
okake makanak an hawe ne yakka k=erampewtek *owari*
後 どう いる/ある REP.EV COP ても 1SG.A=わからない 終わり
少女だったので、私は疲れていたけどすぐに眠ったので、その後はどうあれ覚えていない。終わり。

2.2 テキスト 2

採録日：2015 年 8 月 8 日

テキスト収録時間：19 分 56 秒

(1) kani na pon, pon makkaci ku=ne wa an hi ta,
1SG.PRON まだ 小さい 小さい 少女 1SG.A=COP て いる/ある NMLZ に
私がまだ小さい少女だったときに

(2) hapo oro wa ete un nep ka ku=ye sekor a=en=ye wa,
母 ところ から ここ へ 何 か 1SG.A=言う QUOT 4.A=1SG.O=言う て
母からここ（姉のところ）へ何か私が言うように言われて

(3) ne a=en=ye itak ka tane anakne ku=oyra korka, ek..
その 4.A=1SG.O=言う 言葉 も 今 TOP 1SG.A=忘れる けれど #
その私が言われた言葉も今となっては忘れてしまったけれど

(4) hapo *ni* a=en=ye neno te un ek wa,
母 に 4.A=1SG.O=言う ように ここ へ 来る て
yakka *ane*, *ina..* *inakute*, *ane* hosipi s.. kusu sekor ku=yaynu wa
でも 姉 # いなくて 姉 帰る # から QUOT 1SG.S=思う て
母に言われたようにここへ来て、だけど姉がいなくて、姉がもどると思って

(5) oro ta sinot kor *ane kuru no* tere kor an yakka ne *ane*
そこ で 遊ぶ て 姉来るの 待つ て いる/ある ても その 姉
onuman ne yakka nukar ka isam
夕方 COP ても 見る も ない
そこで遊びながら姉が来るのを待っていたけど、姉は夕方になっても姿を見ない。

(6) tane pak an yakka *ane* ek somo ki p ne yakun
今 まで いる/ある ても 姉 来る NEG する NMLZ COP なら
tane kunne wa cise or un ku=hosipi rusuy kusu
今 夜になる て 家 ところ へ 1SG.S=帰る DESID ので
今までいても姉が来ないのなら、もう夜になったから私は家へ帰ろうと

(7) ku=kor cise or un ku=hosipi emko-ho ta pon *hasi* an wa
1SG.A=持つ 家 ところ へ 1SG.S=帰る 半分-POSS に 小さい 橋 いる/ある て
ne *hasi* pakno k=arpa
その 橋 まで 1SG.S=行く
私の家へ帰る途中に小さい橋があって、その橋まで行った。

(8) *moo* kunne p ne kusu sinen ne ne yakun *okubyooda mon dakara*,
もう 夜になる NMLZ COP ため 一人 COP COP なら 臆病だもんだから
isoidette yuu koto nantakke (K: トゥナシノ)
急いでってゆうことなんたっけ (K: 早く)
もう夜になるので一人だと臆病なものだから、「急いで」というのはアイヌ語で何というんだっけ？（K: トゥナシノ）

(9) tunasno hosipi rusuy korka mismu wa neun ka an yakun sekor
早く 帰る DESID けれど 寂しい て 誰 か いる/ある なら QUOT
ku=yaynu kor ne *hasi* an wa, pon *hasi* an wa
1SG.S=思う て その 橋 いる/ある て 小さい 橋 いる/ある て
早く帰りたいけれど寂しいから誰かいればと思いっていると、その小さな橋があって

(10)oro un arpa akusu, ku=kor etoko ta hemanta okkayo neno an
そこ へ 行く と 1SG.A=持つ 先 に 何 男 ように いる/ある
kur *watasi no saki*, *nante yunda*, etoko, ku=kor etoko ta an..
人 私の先 なんてゆんだ 先 1SG.A=持つ 先 に #
apkas kor an siri ku=nukar wa, oh..
歩く て いる/ある VIS.EV 1SG.A=見る て #
そこへ行くと私の前方に、何か男のような人が、私の前方に歩いているのが見えて

(11)ku.. ku=hoyupu wa ne okkayo samake ta arpa yakun *samisikunai* sekor,
1SG.S=走る て その 男 そば に 行く なら 寂しくない QUOT
isitoma ka somo ki sekor ku=yaynu wa, ku=kesanpa poka ki kor
怖い も NEG する QUOT 1SG.S=思う て 1SG.A=追いかける でも する と
私は走ってその男のそばに行けば寂しくない、怖くないと思って追いかると

(12)ne okkayo kani ku=kesanpa kor, ne okkayo ka
その 男 1SG.PRON 1SG.A=追いかける と その 男 も
ku=ke.. ku=kesanpa
# 1SG.A=追いかける
その男を私が追いかけると、その男も、私が追いかける[7]。

(13)oro wa iyotta, samake ta arpa rusuy sekor ku=yaynu kusu *isogeba*
そこ から 最も そば に 行く DESID QUOT 1SG.S=思う ので 急げば
それから一番、そばに行きたいと思ったので急げば

(14)neno hoski arpa okkayo neno an pe ka *isogu*
そのように 先に 行く 男 のよう いる/ある NMLZ も 急ぐ
同じく先に行く男のようなものも急ぐ。

(15)ne.. ne apkas kata otu suy re suy ku=ki yakka
その 歩く かた 二 回 三 回 1SG.A=する ても
ne okkayo or un osikoni ka k=eaykap
その 男 ところ へ 追いつく も 1 SG.A=できない
そのような歩き方を何回かしても、その男のもとへ追いつくことができなかった。

(16)kani pon makkaci ku=ne korka nep ka a=e..
1SG.PRON 小さい 少女 1SG.A=COP けれど 何 か #
nep ka kani eun
何 か 1SG.PRON へ

[7] (12)は言い淀んでいる。

私は小さい少女だけど、何かが私に向かって

(17)*tyosareterutte yuu kotoba nanteyunda*, *wakannai* nep ka ne yakka,
ちょされてるってゆう言葉なんてゆんだ わかんない 何 か COP ても
(K: イウェンテ) […][8] *kiita koto nai kotoba da*
(K: 悪くさせる) 聞いたことない言葉だ
「ちょされる（悪さされる)」という言葉、アイヌ語で何というんだ。わからない。何かであっても（K: イウェンテ）聞いたことない言葉だ。

(18)hemanta an pe ne.. ne wa ene ku=hoyupu kor neno
何 ある もの # COP て こう 1SG.S=走る と そのように
hoski arpa okkayo ka hosipi,
先に 行く 男 も 帰る
何なのだ、このように私が走ると、同じように先に行く男も走る。

(19)ne ene an apkas otu suy re suy ku=ki korka
その こう いる/ある 歩く 二 回 三 回 1SG.A=する けれど
このように歩くことが何度かあったけれど

(20)hoski nukar korka.. kor neno *kawaranai*, *kawaranaitteyuu imi*,
先に 見る # と そのように 変わらない 変わらないってゆう意味
nanteyuuka, moo wasureta, kangaeteoku, *kore*
なんてゆうか もう忘れた 考えておく これ
先に（歩く男を）見ると同じように変わらない。

(21)taan pe anakne pirka okkayo ka somo ki p neno ku=yaynu
この NMLZ TOP 良い 男 も NEG する NMLZ そのように 1SG.S=思う
これは良い男ではないもののように私は思った。

(22)pon, kani pon korka neno ku=yaynu, nep ka kani eun
小さい 1SG.PRON 小さい けれど そのように 1SG.S=思う 何 か 1SG.PRON へ
私は幼かったけど、そのように思った。何か私に（悪さをしている）

(23)*tyo*.. *tyosarerutte yuu koto dooyuu koto da*, *wasureta*, kor *husigidana* sekor
# ちょされるってゆうことどうゆうことだ 忘れた て 不思議だな QUOT
ku=yaynu kor apkas hi ta,
1SG.S=思う て 歩く NMLZ に
「ちょされる（悪さされる)」という言葉、アイヌ語でどういうんだ。忘れてしまった。そうしながら、不思議だなと思いつつ歩いているとき

(24)*soodane*, *are de nanbo aru*, *150 meeta kurai* neno os arpa yakka
そうだね あれでなんぼある 150 メータくらい そのように 後から 行く ても
osikoni ka eaykap
追いつく も できない

[8] 調査者がテキスト 1 の(16)で吉村氏から得られた iwente（i=wen-te, 4.O=悪い-CAUS）を提示したが、「ニウェンテ？」と聞き返された。あらためて「イウェンテとかって言いますかね？」と提示しなおしてテキストに続く。

あれはどれくらいだったか。150 メートルくらい、そのように後ろからついて行っても追いつくことができなかった。

(25)kani *yukkuritoyuunowa?* (K: アプンノ)[9] apunno apkas kor hoski
1SG.PRON ゆっくりとゆうのは (K: ゆっくり) ゆっくり 歩く と 先に
an okkayo ka apunno an,
いる/ある 男 も ゆっくり いる/ある
私が、「ゆっくり」というのは？（K: アプンノ）ゆっくり歩くと、私の先にいる男もゆっくりとしている。

(26)ku=hoyupu kor neno hoski an pe ka ku=hoyupu kor an
1SG.S=走る と そのように 先に いる/ある NMLZ も 1SG.S=走る て いる/ある
wa osikoni ka k=eaykap
て 追いつく も 1SG.A=できない
私が走ると同じように先にいる男も走っていて、追いつくことができない。

(27)hemanta an pe ne wa ene a=en=cositaro[10], pe neno
何 いる/ある NMLZ COP て こう 4.A=1SG.O=いじる NMLZ ように
ne wa sekor ku=yaynu wa akusu,
COP て QUOT 1SG.S=思う て すると
何があってこのように私に悪さをしているんだと思っていると

(28)ku=kor ne pon *hasi* o.. okere wa, hi ta, ponno apkas *moo ano*,
1SG.A=持つ その 小さい 橋 # 終わる て NMLZ に 少し 歩く もうあの
osikoni ka eaykap ne yakun pi.. *yukkuri*, *yukkuri nantake?* (K: アプンノ)
追いつく も できない COP なら # ゆっくり ゆっくりなんたけ (K: ゆっくり)
apunno apkas wa akusu,
ゆっくり 歩く て と
私のその小さい橋を（渡り？）終えたそのときに、もう追いつくこともできないなら、「ゆっくり」はアイヌ語で何だっけ？（K: アプンノ）ゆっくり歩いていると

(29)kani *usiro wa?* (K: オシ) n (K: オシです) os.. *sono hasi* okere wa
1SG.PRON 後ろは (K: 後ろに) ん (K: 後ろにです) # その橋 終わる て
ne *hasi* yakka, rip..
その 橋 でも #
私、「後ろ」はアイヌ語で？（K: オシ）その橋を渡りおえて

(30)*sono hasi watatte*, akusu, *nan no ki nasi*, *usiro wa?* (K: オカケタとかですかね？)
その橋渡って すると 何の気なし 後ろは (K: 後にとかですかね？)

[9] テキスト 1 で吉村氏から得られた「apunno（ゆっくりと）」を提示した。
[10] 「cositaro」は日本語の「ちょす（標準語：いじる）」をアイヌ語の動詞に借用したものと考えられる。たとえば、萱野（2002）の「kattaro（勝ち、勝つ）」「maketaro（負けた、敗れる）」や田村（1996）の「ki-tontaro（飛ぶ）」などはこの類例と考えられ、中川（1995：250）は接尾辞「-taro」について「日本語の動詞からアイヌ語の動詞を作るのに用いられる。日本語動詞の音便語幹に接合する」と記述している。

hasi apkas okere wa okake ta
橋 歩く おわる て 後 に
その橋渡ると何の気なしに、「後ろ」はアイヌ語で？（K: オカケタとかですかね？）橋を渡りおえた後に

(31)poro *tenmari* neno an *hi no tama*, *tonde*, *tobutte nan da*
大きい てんまり ように いる/ある 火の玉 飛んで 飛ぶってなんだ
kantan dayona […][11] *tenmari* neno an ka *tyootin* hene an
簡単だよな てんまり ように いる/ある も 提灯 でも いる/ある
pe neno ka an.. an pe
NMLZ ように も # ある NMLZ
大きい手鞠のような火の玉が飛んできて、「飛ぶ」はアイヌ語でなんだ、簡単だよな。手鞠のようでも提灯のようでもあるもの

(32)ku=sapa-ha erikasi, *tonde*, *dooro hanarete sono hi no tama*,
1SG.(A)=頭-POSS 上の方 飛んで 道路離れてその火の玉
ku=nukar wa, hi anakne ku=kimatek wa
1SG.A=見る て NMLZ TOP 1SG.S=驚く て
私の頭の上のほうへ飛んできて、道を離れてその火の玉を見たときは驚いて

(33)ne hoski arpa okkayo ka ku=oyra wa ne *hi no tama* ku=nukar
その 先に 行く 男 も 1SG.A=忘れる て その 火の玉 1SG.A=見る
akusu sisam cise *kura* an pe ne a, ne cise or un suma
と 和人 家 倉 ある NMLZ COP PERF その 家 ところ へ 石
hene turse siri neno oro ta ne *hi no tama* turse wa
でも 落ちる VIS.EV ように そこ に その 火の玉 落ちる て
あの先を歩いていた男のことも忘れて、その火の玉を見ると、和人の家の倉があって、その家へ石でも落ちるように、その火の玉が落ちて

(34)oro wa anakne makanak ku=ki hi ka k=erampewtek
そこ から TOP どう 1SG.A=する NMLZ も 1SG.A=わからない
それからはどうしたのかも覚えていない。

(35)oro wa, *dono gurai tattanoka*, *waka*.. k=erampewtek korka
そこ から どのぐらい経ったのか # 1SG.A=わからない けれど
erikubi nante yunda, *wakannaika?* *wasi mo wakannai* […][12]
襟首なんてゆんだ わかんないか わしもわかんない
それからどれほど経ったのかわからないけど、「襟首」はアイヌ語でなんていうんだ？わかんないか？私もわからない。

---

[11] この文脈での「飛ぶ」にあたる語は吉村氏から得られていないが、吉村氏からの問いかけに対して調査者が「hopuni（飛ぶ）」を提示したところ「いや、そうでない」との返事がありテキストに続く。

[12] この文脈での「襟首」にあたる語は吉村氏から得られていないが、吉村氏からの問いかけに対して調査者が「okkewe（襟首）」を提示したところ「okkewe ったら腰のことゆんだ」との返事がありテキストに続く。ただし、吉村氏への語彙調査では一定して腰を「ikkewe」と回答し「okkewe（襟首）」と区別していることから偶発的な誤りと考えられる。

(36)*erikubi* kisma wa as yan as yan sekor as ka eaykap pe
襟首 掴む て 立つ IMP.FP 立つ IMP.FP QUOT 立つ も できない NMLZ
ne.. ne ruwe ne sekor hawean kor
COP INFR.EV COP QUOT 言う て
襟首をつかんで「立ちなさい、立ちなさい」と、「立てないのか？」と言って

(37)hunna ka kani ku=terketerke kor ku=kor amip ani wa iruska
誰 か 1SG.PRON 1SG.S=跳ねる て 1SG.A=持つ 着物 持つ て 怒る
kor an hi ta
て いる/ある NMLZ に
誰かが、私をぴょんぴょん跳ねさせながら私の着物をもって怒っているときに

(38)easir kani *ki ga tuite* akusu, hapo ne wa an wa, hemanta
初めて 1SG.PRON 気が付いて と 母 COP て いる/ある て 何
an kusu ene an uske ta e=hokke wa an ruwe
いる/ある ため こう いる/ある 場所 に 2SG.S=寝る て いる/ある INFR.EV
ne na sekor ku=hawean,
COP FP QUOT 1SG.S=言う
そこで初めて私が正気付くと、母であって、「何のためにこんな場所でお前は寝ているのだ」と言った

(39)*hazimete sokode ki ga tuite*, hapo *ima kuru nagara*, hunna ka okkayo
初めてそこで気が付いて 母 今来るながら 誰 か 男
e=nukar ka somo ki sekor ku=nu kor
2SG.A=見る も NEG する QUOT 1SG.A=聞く と
初めてそこで気が付いて「母さん、今来る途中で誰か男に会わなかったか」ときくと

(40)eani neno ene an kunne hi ta hemanta apkas pe
2SG.PRON ように こう いる/ある 夜になる NMLZ に 何 歩く NMLZ
an pe ne wa ene e=hawean,
いる/ある NMLZ COP て こう 2SG.S=言う
「お前のようにこんな暗い時間に歩くものがいて、そんなことを言うんだ」

(41)sirpeker hi ta hokure hosipi ka somo ki p ne kusu ene
明るくなる NMLZ に 早く 帰る も NEG する NMLZ COP から こう
an pe ne na sekor hawean kor iruska,
ある NMLZ COP FP QUOT 言う て 怒る
「明るいときに早く帰らないものだからこうなるんだぞ」と言って怒った。

(42)ku=tek-e kisma wa uni un arpa se.. pe ne sekor ku=yaynu kor
1SG.(A)=手-POSS 掴む て 家 へ 行く # NMLZ COP QUOT 1SG.S=思う て
私の手を掴んで家へ行くんだと思いながら

(43)hapo ku=tek-e ninpaninpa wa arpa akusu cise or un ahun
母 1SG.(A)=手-POSS ひきずる て 行く と 家 ところ へ 入る

yakun wen na,
なら 悪い FP
母が私の手を引っ張ってひきずって行くと「家に入ったらだめだよ」

(44)*tyotto mattete*, [...][13] a... eani neno kunne apkas kur hemanta
ちょっと待ってて # 2SG.PRON ような 夜 歩く 人 何
an pe an
いる/ある NMLZ いる/ある
ちょっと待ってて、「お前にように暗くなって歩く人は何なのだ」

(45)sirpeker hi ta hosipi somo ki kusu ene an ikokatun iki kor
明るい NMLZ に 帰る NEG する ので こう いる/ある 様子 する て
an ruwe ne na sekor hawean kor a=en=kopasrota
いる/ある INFR.EV COP FP QUOT 言う て 4.A=1SG.O=叱りつける
「明るいときに帰ってこないから、こうなるんだぞ」と（母は）言って、私は叱られた。

(46)ku=tek-e ninpaninpa wa cise or un hosipi p ne na sekor
1.(A)=手-POSS ひきずる て 家 ところ へ 帰る NMLZ COP FP QUOT
ku=yaynu kor
1SG.S=思う て
母が私の手を引っ張ってひきずって家へ帰るものだと私は思いながら

(47)*dare mo ikiawanaitte yuu koto wa*, *yappari wasi* pirka p ku=nukar
誰も行き会わないってゆうことは やっぱりわし 良い NMLZ 1SG.A=見る
somo ki no ohainkar siri ne yakun sekor ku=yaynu
NEG する て 幻を見る VIS.EV COP なら QUOT 1SG.S=思う
母が誰にも行き会わなかったということは、やっぱり私は良いものを見たのではなく、
幻を見たんだと思った。

(48)*mada aru yo* cise o.. arpa wa cise or un ahun nani cise or un
まだあるよ 家 # 行く て 家 ところ へ 入る すぐ 家 ところ へ
ahun pe ne na sekor ku=yaynu kor
入る NMLZ COP FP QUOT 1SG.S=思う て
まだ話は続くよ。家へ行って、すぐ家へ入るんだと私は思いながら

(49)hapo ku=tek-e ninpaninpa wa arpa akusu,
母 1.(A)=手-POSS ひきずる て 行く と
母が私の手を引っ張ってひきずって行くと

(50)cise or un ahun yakun wen na, te ta as wa an
家 ところ へ 入る なら 悪い FP ここ に 立つ て いる/ある
sekor hawean kor
QUOT 言う て
「家へ入ったらだめだぞ、ここに立っていろ」と言って

[13] 来客応対のため 2 分ほど中断して再開した。

(51)*mukasi*, *benzyo*, *ima*, *otearaitte yuu kedo* (K: うんと、アシンル)
昔 便所 今 お手洗いってゆうけど (K: うんと、便所)
asinru samake ta ku=nunpaninpa wa
便所 そば に 1SG.A=ひきずる て
昔は便所、今はお手洗いっていうけどアイヌ語では？（K: うんと、アシンル）、便所のそばに母が私を引っ張っていって

(52)oro ta as wa an sekor hawean kor hapo hinak un ka
そこ に 立つ て いる/ある QUOT 言う て 母 どこ へ か
arpa wa isam
行く て いない
「そこに立っていろ」と言って母はどこかへいってしまった。

(53)hokure cise or un ahun wa ku=sini rusuy pe hinak un arpa
早く 家 ところ へ 入る て 1SG.S=休む DESID NMLZ どこ へ 行く
ruwe ne na sekor ku=yaynu kor ku=tere wa an akusu
INFR.EV COP FP QUOT 1SG.S=思う て 1SG.A=待つ て いる/ある と
早く家に入って休みたいのに、どこへ行ったんだと思いながら待っていると

(54)hapo hemanta ka kor wa ek akusu, hureasni[14], *tatiitigo ne*,
母 何 か 持つ て 来る と タチイチゴ タチイチゴね
ani wa ek wa,
持つ て 来る て
母が何か持ってくると、タチイチゴを手に持ってきて

(55)ani ku=sapa-ha *kara* ku=kema-ha pakno ka hussa hussa sekor
それで 1.(A)=頭-POSS から 1.(A)=足-POSS まで も フッサフッサ QUOT
hawean kor kasi a=kik wa,
言う て 上 4.A=叩く て
それで私の頭から足まで「フッサ、フッサ」と言いながら私をお祓いして

(56)ne hureayusni *toire nantakke?* (K: アシンル) asinru *ura no hoo e*
その タチイチゴ トイレなんたっけ (K: 便所) 便所 裏のほうへ
kor wa.. wa osura wa ek
持つ # て 捨てる て 来る
そのタチイチゴを、「トイレ」はアイヌ語でなんだっけ？（K: アシンル）、便所の裏のほうへ持っていって捨ててきた。

(57)cise or un ahun wa.. yakun wen na, na pirkano tere yan sekor
家 ところ へ 入る # なら 悪い FP まだ よく 待つ IMP.FP QUOT
hawean kor, ne hureayusni osura kusu hunak un ka arpa
言う て その タチイチゴ 捨てる ため どこ へ も 行く
「家へ入ったらだめだよ、まだちゃんと待ってなさい」と言って、そのタチイチゴを捨

[14] 「hureayusni（タチイチゴ）」の言い誤り。

てるために（母は）どこかへ行った。

(58)akusu cise samake ta k=as wa k=an, apa sam ta,
すると 家 そば に 1SG.S=立つ て 1SG.S=いる/ある 戸 そば に
as wa ku=tere kor an akusu,
立つ て 1SG.A=待つ て いる/ある と
家のそばで、戸のそばで私が立って待っていると

(59)iyapo *sa* sippo en=kore sekor hapo hotuyekar akusu iyapo
父 さ 塩 1SG.O=くれる QUOT 母 叫ぶ と 父
siogame *ta*.. ani wa ek wa
塩甕 # 持つ て 来る て
父に「塩をちょうだい」と母が叫ぶと、父が塩の入った甕を持ってきて

(60)ne *sio* ani kani eun kasi a=kik wa en=kore akusu,
その 塩 で 1SG.PRON へ 上 4.A=打つ て 1SG.O=くれる と
その塩で私をお祓いしてくれてると

(61)easir cise or un omare yakka pirka, cise or un ahun yakka
初めて 家 ところ へ 入れる ても よい 家 ところ へ 入る ても
pirka wa sekor hawean wa,
よい FP QUOT 言う て
そうして初めて家へ入れてもいい、入ってもいいよと言って

(62)oro wa *moo* ku.. *tukarete tukarete* ku.. ku=kema-ha ka
そこ から もう # 疲れて疲れて # 1SG.(A)=足-POSS も
koo huruerutte yuu koto nanta, tususke *moo* ku=sinki wa ku..
こう震えるってゆうことなんた 震える もう 1SG.S=疲れる て #
nantake (K: トゥスシケ) tususke kor k=an pe ne kusu,
なんたけ (K: 震える) 震える て 1SG.S=いる/ある NMLZ COP ので
それから、もう私は疲れて、足も震えているものだから

(63)eani ek hi tere wa ipe ka somo ki no tere yakka
2SG.PRON 来る NMLZ 待つ て 食べる も NEG する て 待つ ても
ek ka somo ki p ne kusu hunara kusu arpa akusu,
来る も NEG する NMLZ COP ので 探す ため 行く と
お前が来るのを待って食事しないで待っていても帰ってこないので探しに行くと

(64)arpa *toyuu ni* hokke kor an wa ku=iruska kor ku=tura wa
行く 途中に 寝る て いる/ある て 1SG.S=怒る て 1SG.A=連れる て
k=ek ruwe ne sekor iyapo or un iyonnuppa kor an,
1SG.S=来る INFR.EV COP QUOT 父 ところ へ 告げ口する て いる
その途中で（娘が）横になっていて、私は怒って連れてきたんだと（母は）父へ告げ口している。

(65)hokure ipe yan sekor hapo *ni* a=en=ye korka ipe ka
早く 食べる IMP.FP QUOT 母 に 4.A=1SG.O=言う けれど 食べる も

ku=nukuri, a=e ka eaykap na, ku=hokke rusuy
1SG.A=できない 4.A=食べる も できない FP 1SG.S=寝る DESID
sekor ku=hawean kor
QUOT 1SG.S=言う て
早く食べなさいと母に言われたけど、食べる気になれないから早く寝たいと言って

(66)ipe ka somo ki no ku=hokke akusu hapo *to* iya..
食べる も NEG する て 1SG.S=寝ると 母 と #
iyapo *to* nep ka itak kor an
父 と 何 か 話す て いる/ある
私が食事しないで横になっていると、母と父とが何かを話している。

(67)yakka kani ku=pewre p ne kusu
でも 1SG.PRON 1SG.S=若い NMLZ COP から
でも、私は幼かったものだったから

(68)ku=sinki wa ipe ka somo ki korka nani ku=mokor
1SG.S=疲れる て 食べる も NEG する けれど すぐ 1SG.S=眠る
疲れて食べもしなかったけどすぐ眠った。

(69)hempara ne yakka ene an uske ta an ene an pe
いつ COP ても こう いる/ある 場所 に いる/ある こう いる/ある NMLZ
tane ne yakka oyra ka somo ki ohainkar sekor an itak
今 COP ても 忘れる も NEG する 幻を見る QUOT いる/ある 話
oyra ka somo ki
忘れる も NEG する
いつでこのようなところに、こうあるもの、今でも忘れもしない幻を見たという話、忘れもしない。

略号一覧

#：言い誤り、言い淀み／-：形態素境界／=：人称接辞境界／1：一人称／2：二人称／4：四人称／A：他動詞主格／(A)：所有者属格／CAUS：使役／COP：コピュラ動詞／DESID：希求／EXCL：除外／FP：終助詞／IMP：命令／INCL：包括／INFR.EV：推測証拠性／K：調査者（岸本）／NEG：否定／NMLZ：名詞化辞／NONVIS.EV：非視覚感覚証拠性／O：目的格／PERF：完了／PL：複数／POSS：所属形／PRON：代名詞／Q：疑問／QUOT：引用／REP.EV：伝聞証拠性／S：自動詞主格／SG：単数／TOP：主題化／VIS.EV：視覚証拠性

謝辞

長年にわたり調査にご協力いただいた吉村冬子氏ならびにご家族の皆様に心から感謝申し上げます。また、本稿の査読者にも感謝申し上げます。なお、本研究は JSPS 科研費 JP20K13009 の助成を受けたものです。

参考文献

押野朱美・秋山里架（2022）「鵡川地方のアイヌ文化伝承者、吉村冬子フチの教え」『国立アイヌ民族博物館研究紀要』1: 56-68.

萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典　増補版』東京：三省堂.

岸本宜久（2021）「アイヌ語鵡川方言の言語ドキュメンテーション」『Arctic Circle』121: 14-17.

田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』東京：草風館.

田村すず子（2002）『アイヌ語音声の研究（平成 13 年度科学研究費補助金（基盤研究（B（2））研究成果報告書）』東京：早稲田大学語学教育研究所.

中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』東京：草風館.

服部四郎（編）（1964）『アイヌ語方言辞典』東京：岩波書店.

Ainu Texts in Mukawa Dialect (1): A Story about Fireball

Yoshihisa KISHIMOTO
(Sapporo Gakuin University)

In this paper, I introduce two narratives recounted by Mrs. Fuyuko Yoshimura, a speaker of the Mukawa dialect of the Ainu language, which I recorded. Text 1, dated August 30, 2014, and Text 2, dated August 8, 2015, both depict Mrs. Yoshimura narrating the same experience. A comparison of these texts unveils an aspect of Mrs. Yoshimura's reactivation in the Ainu language.

Synopsis: Entrusted with an errand by my mother, I went to my sister's house. However, finding her absent, I waited there for a while. As evening fell and I embarked on my journey home, a figure resembling a man was walking ahead of me. Fearful of the night road, I ran to catch up and accompany the person, yet I couldn't reach them. At a moment when I felt toyed with by something malevolent, suddenly, I witnessed a large ball of fire approaching, causing me to lose consciousness. Worried, my mother found me collapsed on the road and escorted me back home. Before entering the house, my mother performed a purification ritual using plants and salt. Exhausted, I fell asleep without having a meal.

（きしもと・よしひさ　kishi@sgu.ac.jp）